

Y08a 地震史料集に掲載された天文関係の史料の課題とその検討

服部健太郎（関西大学）

大正一昭和時代の地震学者である武者金吉（1891-1962）により、1941年から1943年にかけて、地震史料集『増訂大日本地震史料』全3巻が編纂された。過去の地震を記した様々な史料が掲載されている。中には、天文観測との関連を思わせる史料や、天文現象の記述をも含む史料がある。

本発表では、次の史料に注目する。

『寒暖晴雨升降記』

河井庫太郎 編『大日本府県志 卷之10-14』の卷十「天変附気象」

西村遠里 編『本朝天文志』

これら3史料の課題を取り上げ、検討する。

『寒暖晴雨升降記』については、“何千何百何十何行”という記述の解釈が未解決（茅野，2001）であった。また、『大日本府県志 卷之10-14』及び『本朝天文志』については、記述の出典調査に検討の余地があった。